



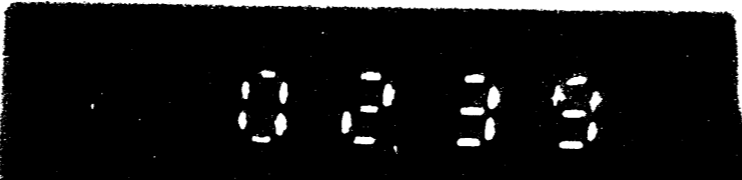
河野正太郎

(昭和十年)

朝鮮及臺灣ノ現況

内務省管理局

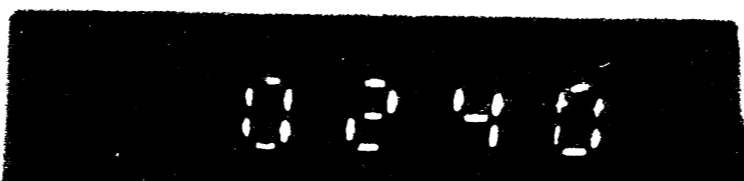
REEL No. A-0505



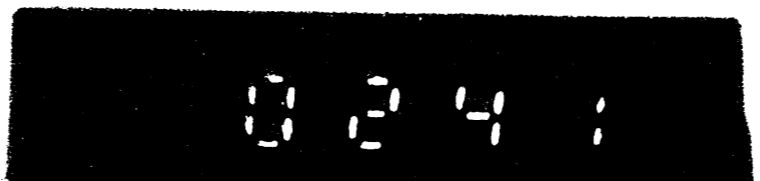
アジア歴史資料センター

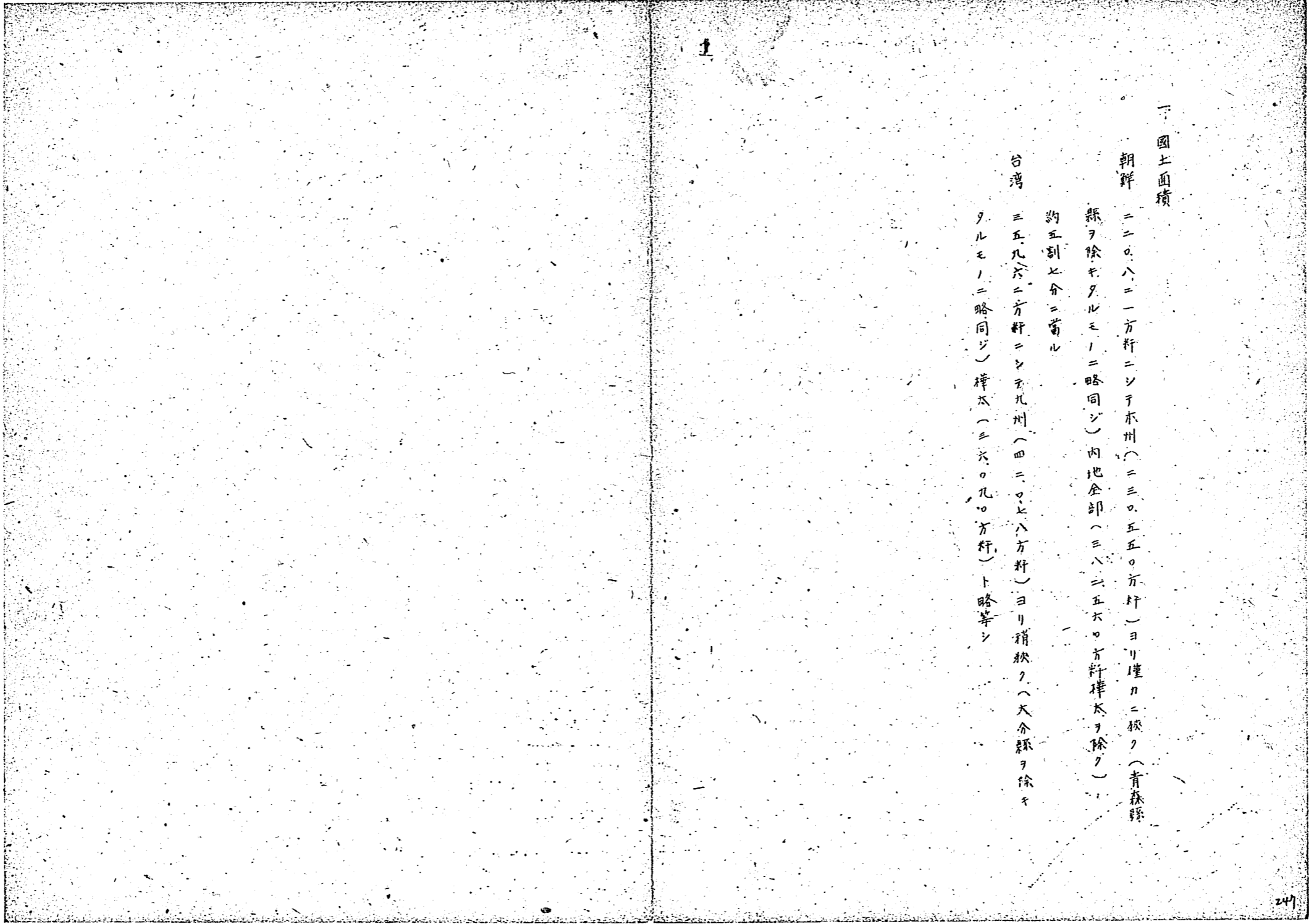
一	國土面積	一
二	人口	三
三	神社	五
四	宗教	八
五	教育及國語普及狀況	一〇
六	兵役關係事項	一三
七	法制	一六
八	司法制度	一九
九	地方制度	二一
一〇	警察機構	二四
一一	賦政	二六
一二	國民所得及國民貯蓄ノ狀況	二八
一三	金融機關並ニ内地ヨリノ投資概況	三九
一四	勞務事情	三二
一五	食糧供給狀況	三四
一六	最近五年間ノ外地米ノ内地移出狀況及其減少理由	三六
一七	食糧ノ配給制度	三七
一八	米價対策	三九
一九	食糧増産方策	四一
二〇	臺灣糖業	四六
二一	肥料事情	四九
二二	林業及木材ノ供給	五一
二三	畜産及馬政	五四

目次



二四	水産業	五六
二五	重要鉱物生産	五七
二六	重点産業と朝鮮、臺灣	五九
二七	電気事業	六三
二八	鐵道	六五
二九	大陸輻射物資輸送状況	六七
三〇	物價情勢	六八
三一	朝鮮、台湾と内地の經濟關係	七〇
三二	朝鮮及台湾に於ける重要諸会社	七二
三三	内地未住朝鮮人及臺灣人	七五
三四	政府と朝鮮總督府、臺灣總督府との關係	七八
三五	朝鮮及台湾同胞に対する一般處遇改善	八〇
三六	朝鮮及台湾在住同胞に対する政治處遇改善	八一





一 國土面積

朝鮮

ニニ〇、八二一平方軒ニシテ本州（ニ三〇、五五〇平方軒）ヨリ僅カニ狭ク（青森縣

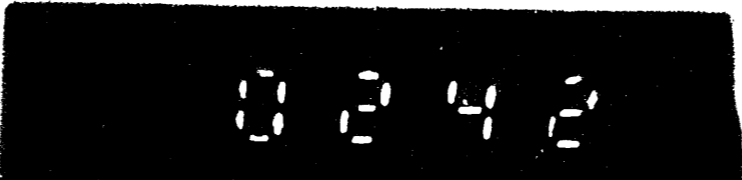
縣ヲ除キタルモノニ略同ジ）内地全部（三、八二五、六〇〇平方軒）ヲ除ク

台湾

ニ五九、六二二平方軒ニシテ九州（四二、〇〇〇平方軒）ヨリ稍狭ク（大分縣ヲ除キタルモノニ略同ジ）樺太（ニ六、〇九〇平方軒）ト略等シ

上

247



二人 (昭和十八年末現在)

朝鮮 二六六六一五〇人

内

内地人 七五八五九五人

朝鮮人 二五八三三〇八人

其ノ他 七六二四七人

台湾 六五八五八四一人

内

内地人 三九六〇九〇人

本島人 六一三三六六七人

(内高砂族) (一六六九六一人)

其ノ他 五四八八四一人

朝鮮人ノ内地在住数ハ約百八十萬人、滿洲地帯在住数約百六十萬人ト概算セラル

ルヲ以テ右朝鮮内人口ト合計シ現在ノ朝鮮人口ハ約二千九百萬ト為ル

併合當時(明治四十三年)ノ朝鮮人口ハ千二百三十(萬人)ト概算セラルルヲ以

テ三十五年間ニ二倍ヲ超スル増加ヲ示セルモノニシテ同期間ニ於ケル内地人口ノ

増加率(五千五千人)ヨリ七三(三四四十二万人)ニ約四分ニ比スレバ著シク高率ナリ

領有當時(明治元年)ノ台湾人口ハ約二百八十萬人ト概算セラルルヲ以テ其ノ

後四十八年間ニ約十三割ヲ増加ス

台湾ノ出生率(人口千人當)ハ四三乃至四五ノ高率ヲ示シ世界無比ト称セラル

朝鮮モ三五以上ノ高率ヲ示シツ、アリ

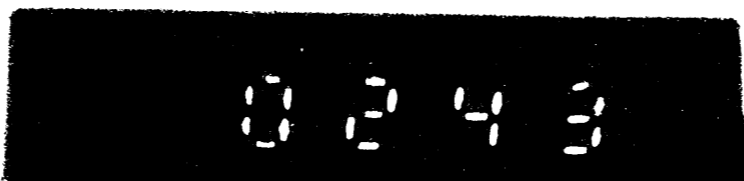
出生率高ク原因ノ一トシテ早婚ノ風習ヲ挙グルニトテ得テ例之昭和十年内地ニ

於ケル二十五才ノ女子千人中未婚者數百六十五人ナルニ對シ朝鮮ニ於テハ僅カニ

十一人ナリ

職業別人口ヲ見ルニ朝鮮ニ於ケル農業人口ハ總人口ノ六六%ヲ占ムルニ對シ、台

灣ニ於テハ四八%ニ過ズ、(内地ハ近年低下シテ四〇%弱ナルバシ農家一戸當科



作反別ハ一八六六甲ニシテ内地ヨリ寧口廣ク農村努力ハ不足ヲ訴レ。  
 近時朝鮮ニ於テハ重要産業、内地進出等ノ為、台湾ニ於テハ重要産業、軍施設備  
 策等ノ為人員ヲ要スル所多ク各部固ニ於ケル勞務事情ハ相當窮乏化シ居レテ現狀  
 十リ。  
 (参考)  
 (一)過去五年間朝鮮及台湾人口額

年次	朝鮮	臺灣
昭和十四年米	二二、八〇〇、六四七	五、八九五、八六四
昭和十五年米	二二、七〇九、〇五七	六、〇七七、四二八
昭和十六年米	二四、七〇三、八九七	六、二四九、四六八
昭和十七年米	二六、三六二、四〇一	六、四二七、九三二
昭和十八年米	二六、六六二、一五〇	六、五八五、八四二

(二) 朝鮮道別人口 (昭和十八年現在)

道名	人口總數	内地籍	朝鮮籍	其他
京畿道	三、六六八、四五五	二、〇六三、三四一	一、四〇四、五〇二	八〇〇、二
忠清北道	九、九五二、四八八	七、六七一七	九八五、一七五	六、四八八
忠清南道	八、七一六、八八六	六、九四四五	一、六八二、六八八	一、〇五三
全羅北道	一、七三九、五八三	一、五、六一一	一、七〇二、七二六	一、一〇六
全羅南道	一、八三二、五三八	四、四四六	二、七八六、三九一	六、八八
慶尚北道	二、六五八、八〇〇	四、四七、八八	二、六二二、五八一	四、九七
慶尚南道	二、四七九、三五九	一、〇三〇、三八	二、三六六、八六六	四、六五
黃海道	二、〇〇九、二五二	二、六九八、九	一、九六九、三四三	六、九二〇
平安南道	一、八五三、五五七	五、三〇五、二	一、七九一、七二二	八、二二二
平安北道	一、九三〇、九八七	三、〇六〇、八	一、八六九、六九四	三、〇六八、五
江原道	一、八七二、六九八	二、〇五九、四	一、八五〇、九七六	六、一三九

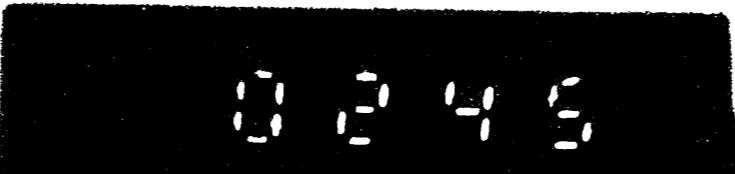
備考

本表中台灣精微插孤内計數ハ高砂旅才不ス

州名	人口總數	內地籍	台灣籍	
			其數	其數
川	二九八七三九	一六五九六四	一〇四四五九	二八三一九
新	八八一七三四	二二〇二八	八五三九	二六六五
臺	一四四〇七九〇	四〇七六	一五八七六	四四一〇
臺	一六一九八〇四	五六三三五	一五五五二	八二四五
臺	一〇〇六六七九	七二二六	九二三四	一〇七
臺	一〇一七四七	七二二	四六八	一一〇
臺	一六九五〇六	二二二八二	一四八四三	二二八一
臺	二〇六四二	三六八五	一四七二	八二
計	六五八五八四一	三九七四九〇	六二二二六六	五四六八四

縣	人口總數	內地籍	台灣籍
成鏡南道	六二一五七七五	七五八七四	六〇三六〇八
成鏡北道	二二一八八四一	七九六八〇	一四二一五四九
計	八四三四六一六	一五五五五四	七四五〇五八

台灣州六別人口 (昭和十八年現在)



三神 社

敬神崇祖ノ美風ヲ作興シ民心ヲ此ニ歸嚮セシムルハ内外地ニ極力ノ振興ニノ期  
 鮮 台湾共ニ神社開設ノ確立、敬神思想ノ普及ハ歴代總督ノ大ニ力ヲ用ヒ來レル  
 所ナルガ觀近皇氏化録成ノ進捗ニ伴ヒ其ノ實亦著リシ、アリ

(一) 朝鮮

官幣大社朝鮮神宮ハ天照大神、國魂命、大己貴命、少彥命、能久命、  
 階社十道府邑伏見神社ニ因リ、伏見外神社ニ丘アリハ昭和十九年五月不現在但シ  
 府伏見神社以下ハ三日不現在、從末國幣社ニ就テ、概テ各道一社ノ御創立ヲ  
 仰グ方針ヲ取り既ニ其ノ列格ヲ仰出サレタルモノ十二道中八道ニ及ブ尙ホ神社  
 ヲ創立シテ之ヲ維持スル資力ニ乏シク地方民ノ急遽救済ノ措置トシテ各邑面ニ神  
 祠ヲ創立シテ之ヲ維持スルヲ認メ其ノ救済ニニ及ベルモノハ昭和十九年三月末  
 現在ハ今後概ホニ四年ヲ目標トシ、未設置邑面ニ村シ全面的ニ之ヲ設立セシムル  
 方針ヲ執リシ、アリ

(二) 臺灣

總鎮守官幣大社台湾神宮ハ天照大神、國魂命、大己貴命、少彥命、能久命、  
 主ヲ奉祀明治三十三年創立、ヲ始メ官國幣社五、縣社八、護國神社一、郷社九、  
 無格社四ニアリハ昭和十九年五月末現在但シ郷社以下ハ昭和十七年十二月末現  
 在、朝鮮同様一州廳一國幣社ノ方針ヲ以テ現在未ダ國幣社十、州廳逐次其ノ列  
 格ヲ仰グノ外一府庄一社ヲ目標トシ、アリ  
 尚且陞各各地ニハ神社ニアラザルモノ社ニ稱シ神祇ヲ奉祀シ神社ニ準ジテ維  
 持セシメ、マ、マ心ニテアリ、其ノ數一六社ニ及ブハ昭和十七年十二月末現在、  
 但シ今後ハ蕃地以外ニ於テハ之ガ創立ヲ許可セザル方針ナリ

備考 官國幣社在ノ如シ

朝鮮

(昭和十九年六月現在)

神 社 名	社 格	祭 神	鎮 座 地	由	年 次
朝鮮神宮	官幣大社	天照大神、國魂命、大己貴命、少彥命、能久命	京城府南山	大正八年七月十八日創立	列格



臺灣

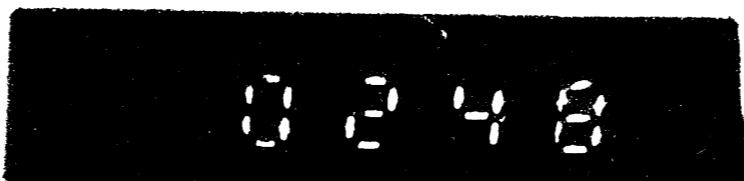
臺中神社	新竹神社	臺南神社	臺灣神宮	神社名
國幣小社	國幣小社	官幣中社	官幣大社	社格
大國魂神 大己貴命	大國魂神 大己貴命 少彥名命 能久親王	大國魂神 大己貴命 能久親王	大國魂神 大己貴命 少彥名命 能久親王	祭神
臺中 新臺中町	新竹 新竹市 容雁	台南 台南市 南門町	臺北 臺北市 大宮町	鎮座地
大正元年十月五日 大正二年五月九日	大正九年十月五日 昭和七年十月五日	大正十四年十月五日 大正十四年十月五日	明治三十三年九月十八日 創立並官幣大社 明治三十四年十月五日 鎮座	由來

江原神社	光川神社	平壤神社	大邱神社	龍頭山神社	京城神社	扶餘神社
國幣小社	國幣小社	國幣小社	國幣小社	國幣小社	國幣小社	官幣大社
天照大神 明神 大己貴命	天照大神 國魂大神 大己貴命	天照大神 國魂大神 大己貴命	天照大神 國魂大神 大己貴命	天照大神 國魂大神 大己貴命 素戔嗚尊 素戔嗚尊 素戔嗚尊	天照大神 國魂大神 大己貴命	天照大神 國魂大神 大己貴命
春川郡春川邑	光川府蓮洞町	平壤府慶上町	大邱府重城町	金山府韓天所	京城府 倭城台町	忠南扶餘郡 扶餘面
大正七年三月十日創立	大正六年三月一日創立	大正五年五月四日創立	大正五年四月五日創立	大正六年七月十日創立 昭和十一年八月一日 國幣小社	大正五年五月三日創立 昭和十一年八月一日 國幣小社	昭和十四年六月 十五日御出

三一

嘉美神社	
國幣小社	
能久親王 大己貴命 大國魂命	能久親王 少彦名命
臺南川喜和義市 山子項	
昭和十九年二月八日同誌 昭和十九年三月三日同誌	昭和十九年七月七日同誌 昭和十九年十月八日同誌 昭和十九年十月十三日同誌

三三三



四 宗 教

(一) 朝 鮮

朝鮮ニ於ケル公認宗教ハ神道、佛教及基督教トシテ各々其ノ教勢ノ發展ニ努メツツアルモ之ヲ諸宗教ノ總信徒數ハ昭和十七年現在ニ於テ百八萬人ニ過ギズ。其ノ教勢不振ノ域ヲ脱シ得ズ。

右ノ中在来ノ宗教トシテハ朝鮮佛教存ス百濟、新羅、高麗朝ニ於テ隆盛ヲ極メタルモ李朝ニ於テ極端ナル抑圧ヲ受ケタル爲、教勢頗ル衰微シ増進ノ腐敗亦甚シク併合以來宗教的活動ヲ公認セラレ漸ク蘇生ノ機運ニ伺ヒ又昭和十六年多手ノ要望タリシ總本山ノ設立ヲ容認セラル、ニ至レルモ未ダ隆盛ヲ窺フニ足ラズ。内地系宗教トシテハ神道、佛教、基督教等殆ンド内地ニ於テ行ハル、各派ノ進出ヲ見ツ、アリト雖モ多クハ在来内地人ヲ対象トシテ布教セラレツ、アルモノニシテ、朝鮮民衆ニ對スル布教ハ直時漸ク其ノ緒ニ着キタルニ過キズ。

朝鮮ニ於ケル宗教中從來教勢比較的優勢ナリシハ基督教ニシテ多クハ改米人宣

教師ニ依リテ傳道セラレ統中長老派、宣理派等ハ多量米英依存ノ牙城ニ籠リ高嶽驛傳事件、神社不参拜問題等ヲ惹起シ頗ル或心ヲ要スル狀況ナリシモ國際情勢ノ急変ニ伴フ英米宣教師ノ總引ヒト共ニ外國傳道本部ト絶縁シ日本の基督教ニ歸化更生スヘク努メツ、アリ。現在信徒約三十八萬人。

次ニ宗教トシテ公認セラレズ警察的取締ノ対象トシテ取扱ハレツ、アルモノニ天道教以下ノ類似宗教アリ。韓國不業ニ於ケル政綱ノ弛緩、社会不安等ノ副産物トシテ發生セルモノニシテ東洋ヲ始メトシ陸続叢生シ種々問題ヲ惹起セルモ肅正ノ結果現在ハ天道教外ニ系統ヲ残スニ過ギズ現在ハ總督府ノ指導ニ順応シ教徒ニ對スル時局認識、皇氏化運動ニ努カシツ、アリ。

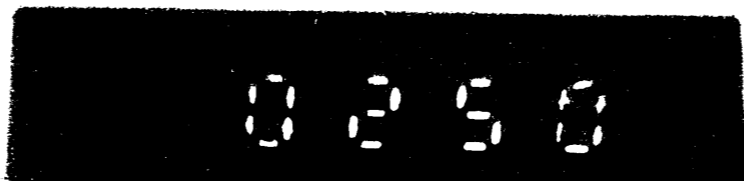
尚宗教ト目スベキニ非ナルモ李朝ニ於ケル儒教興隆ノ時運ニ乘ジ社会的勢力ヲ扶植セル儒家ノ裔ハ儒林トシテ今猶隱然タル勢力ヲ保持シツ、アリ。從來朝鮮ニ於ケル儒教ノ機関トシテハ京城ニ成均館アリ各地ニ脚校アリ、何レモ孔子ヲ祀ル文廟ト學ヲ講ナル明倫堂トヲ設ケ教化ノ中心ヲナスルルガ總督始政後成

均館ハ内容形式ヲ整理シテ、経学院ト改メ之ヲ國ニ移管シ御校ホ其ノ財産ヲ地方  
 官ノ管理トシテ、收ノ儒林ヲシテ進シテ皇道儒學ヲ確立シ社会教化ニ努カスルノ  
 氣分ヲ養ヒ以テ民風ノ振興ニ資セシメシコトヲ期シツ、アリ、全鮮儒林ノ統一  
 組織トシテハ、聖學院ヲ中心ニ朝鮮儒道聯合会アリ、之リ下部組織トシテハ、儒  
 道聯合会、前部島聯合会アリ、

(二) 台湾

六百萬ノ島民ノ大部分ノ信仰ハ百慣ニ依ル在来宗教ニシテ、一教ニ之ヲ儒教、佛  
 教、道教、基督教及雜教ノ五ニ分類シ居ルモ既ニ相混濁シ極メラシキ教、佛及儒  
 祠ハ外ハ何レモ亦来ノ面目色彩ナク所謂寺廟信仰トシテ、眼前ノ福利希求ノ爲ニ  
 スル盲目的、迷信的ナルモ、多ク狂々不逞ノ徒ハ衆アル所トナリ、之ガ改善爾正  
 ハ從來總督府ニ於テモ太ニ意ヲ用ヒ来レル所ナリ、  
 基督教(天主教會、長老派教會)ハ改隸前既ニ外口宣教師ニ依テ布教セラレ  
 改隸後不祥事件ヲ惹起シタルコトアリシモ時局ノ變転ト共ニ外口トノ關係ヲ絶

チ日本の基督教トシテ更生シツ、アリ  
 改隸後内地ヨリ傳來セルモノニ神道、佛敎及基督教アリ、何レモ之トシテ内地  
 人ノ信仰ニ係ルモノナルガ、近來本島人ニ對スル教化モ漸次進展ノ状態ニ在リ



五 教育及國語普及状況

国民学校就学率、昭和十八年度ニ於テ朝鮮六一%、台湾六八%ナリ尚第一学年就学率ハ朝鮮六五%台湾八九%ナリ

台湾ハ昭和十八年度ヨリ国民学校ノ義務制ヲ実施シ朝鮮ハ昭和二十一年度ヨリ之ヲ實施スベクヨリ教育機関ノ拡充ヲ行ヒツ、アリ

但シ義務教育期間ハ朝鮮、台湾共ニ六年トシ又義務制実施後ニ實際就学率ハ八五%乃至九〇%程度ヲ目標トシアリ(女児ノ就学率ハ男児ニ比シテ低シ)、中等学校ハ

実業学校ニ重キヲ置キ手又増設セラレシ、アリシカ特ニ通級教育時非常措置方策ニ基キテ實施セラレタル農業、工業、女子商業学校ノ新設スハ不急実業学校ヨリノ転換

相当数ニ上レリ  
専門学校ハ昭和十八年度ニ於テ朝鮮一校(内官立七、公立二) 台湾四(官立一ナリ)ニ教育時非常措置方策ニ基ク整備統合ヲ實施シ朝鮮ニ於テハ文科系専門学校ニシテ昭和十九年度ヨリ生徒募集ヲ停止セルモノ六(官立二、私立四) 新設

セルモノ文科系三(官立一、私立二)何レモ募集停止学校ヲ転換シ理工系四(官立二、公立二)計ニ四校(比シテ外拡充セルモノ、理工科九、尚ニ女子専門ノ既設各学科ヲ停止シ女子青年隊或師範指導員養成科ヲ附設ス)トナリ又台湾ニ於テハ台北高商ヲ台北經濟専門ニ變更シ台南工專ヲ拡充セル外私立女子専門ヲ一校新設セリ

専門学校以上ノ教育機関ハ朝鮮、台湾共ニ希望全員ヲ收容スル余カナク内地ニ級学校ハ在学スル者、朝鮮八千人、台湾二千人ノ多数ニ上リ而シテ遊學者、七八割ハ私立大学

専門学校ニ入学スルモノナリシガ一昨年秋實施セラレタル学校ノ兵役特別志願ニ依ル減少並ニ法文科系学校ノ整理統合ニ依ル收容定員減少等ニ依リ昭和十九年度ニ於テハ

朝鮮十四百人(六月末現在)台湾約千七百七十人(四月末現在)ニ減少セリ、昭和二十年

年度ニ於テ新ニ内地ニ進学シタル者朝鮮約四百〇、台湾約二〇〇ナリ、尚内地遊學

マシ生指導機関トシテ朝鮮奨学会及台湾協会等設置アリ

國語ヲ解スル者ノ総人口ニ對スル割合ハ台湾約七二%、(昭和十八年十二月現在)朝鮮

約二二%、(昭和十八年十二月現在)ニシテ朝鮮著シク遜色アリ、台湾ニ於テハ学校ノ

外多教ノ皇民錬成所ヲ設ケ又朝鮮ニ於テ七歳強制実施ヲ以テ青年特別錬成ノ課程トシテ國語教育ノ力ヲ效シソアリ

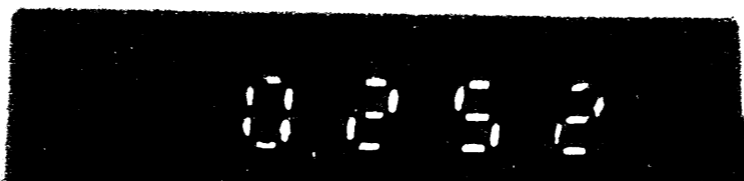
昭和十九年四月末現在

朝鮮	国民学校	中学校	高等女学校	実業補習学校	実業学校	师范学校	专门学校	中任教員養成所
学校数	五二一	七五	七六	一三六	一三二	一六	二〇	三
学生数	二三八九〇〇〇	四一〇〇〇	三三五〇〇	一〇五〇〇	四九八〇〇	一八九〇〇	六〇〇	三三〇

大学 大学 学部

備考 专门学校左ノ如ク

- 官立 京城医学专门学校 (扩充)
- 平壤工业专门学校 (新设)
- 水原农林专门学校 (扩充)
- 京城经济专门学校 (新设)
- 向此、外京城法学专门学校アルモ昭和十九年度ヨリ生徒募集ヲ停止ス
- 公立 平壤医学专门学校 (扩充)
- 成興医学专门学校 (新设)
- 大邱医学专门学校 (扩充)
- 光州医学专门学校 (新设)

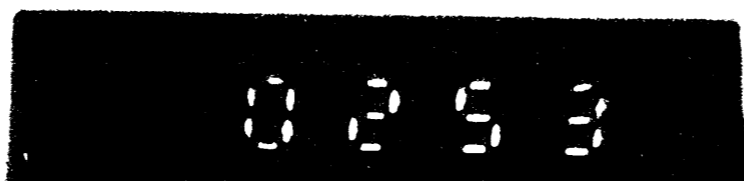


私立 旭医学专门学校 (扩充) 京城齿科医学专门学校 (扩充)  
 京城农业专门学校 (扩充) 京城拓殖经济专门学校 (加倍专门学校)  
 京城工业经营专门学校 (增设专门学校)  
 京城女子医学专门学校  
 梨花女子专门学校  
 淑明女子专门学校  
 尚此、外惠化、明倫向专门学校アルモ昭和十九年度ヨリ生徒募集ヲ停止シ将来  
 廢止ノ予定ナリ

台湾	学校数	学生数
国民学校	一五八	七三九八五六
中学校	二二	一五二〇九
高等女学校	二二	一三三四八

各種学校	学校数	学生数
実業補習学校	九〇	一六九六〇
実業学校	二七	一四六三二
师范学校	三	二七〇四
专门学校	五	一〇九三九
高等学校	一	五六一
大学	一	五六二
大学部	一	五六二
大学	一	三六四

官立 台北经济专门学校 台中农林专门学校  
 台南工业专门学校 (扩充) 台北帝国大学 附属医学专门部  
 私立 台北女子专门学校 (新設)



軍秘

六、兵役關係事項

(一) 概略

支那事變勃發以後、新情勢ニ即シ朝鮮ニ於テハ昭和十三年、台湾ニ於テハ昭和十七年陸軍特別志願兵制度實施セラレ更ニ昭和十八年度ヨリ兩地共海軍特別志願兵制度實施セララルニ至リタルガ之ガ實施ノ成績ニ大東亞戰下ノ新事態ニ鑑ミ、多年ノ懸案タル徵兵制度ヲ實施シ朝鮮ニ於テハ昭和十九年度ヨリ台湾ニ於テハ本二十年年度ヨリ夫々徵集ヲ行フ事トナリタルニ依リ昭和十九年十月陸軍特別志願兵令改正セラレ從ツテ陸軍兵志願者訓練所ハ廢止セララルニ至リタリ

(二) 陸軍特別志願兵制度

前述ノ如ク陸軍兵志願者訓練所ハ廢止セラレタルモ陸軍特別志願兵制度ハ制度トシテハ現存シアリ、徵兵制度實施迄ソ陸軍兵志願者訓練所年度別志願者數及入所者數ハ左ノ如シ

(イ) 朝鮮

年度	志願者數	入所者數
昭和十三年度	二九四六八	四〇六八
昭和十四年度	一一三四八	六一三
昭和十五年度	八四四三	三〇六〇
昭和十六年度	一四四七四三	三二〇八
昭和十七年度	二五四二七三	四〇七七
昭和十八年度	三〇三三九四	六三〇〇

(ロ) 台湾

昭和十八年度	六〇一、二四八	一、〇〇八
昭和十九年度	七五九、七六	二、四九七

(2) 海軍特別志願兵制度

昭和十八年七月勅令第六〇八号海軍特別志願兵令ノ制定ニ依リ朝鮮及台湾ニ海軍特別志願兵制度創設セラレ朝鮮ニ於テハ鎮海ニ台湾ニ於テハ高雄ニ夫々海軍兵志願者訓練所ヲ新設シ同年十月一日之加開所ヲ見タルガ第一回訓練生トシテ入所者各一千名ニ對



シ朝鮮ニ於テハ志願者九萬名台湾ニ於テハ實ニ三十一萬ヲ超エル状  
況ニシテ第三面訓練生ハ各三千名トシ昭和十九年四月一日ヨリ入所シ  
教育ヲ受ケツツアリタルモ軍事上ノ必要ニ依リ海軍ニ於テ直接教育  
ヲ施スコトナリ昭和十九年七月末日限り總督府施設トシテノ海軍  
兵志願者訓練所ハ兩地共之ヲ廃止シ施設ハ海軍ニ引継ケコトナレ  
リ。

(二) 徵兵制施行概況

(イ) 朝鮮

昭和十七年五月朝鮮ニ於ケル徵兵制施行準備ニ関スル閣議決定見  
ルヤ總督府ニ於テハ諸般ノ機構ノ整備ノ擴充等ヲ強化シ之カ準備材  
策ノ萬全ヲ期シ昭和十八年十月一日朝鮮一斉ニ徵兵通令届出ヲ開始  
セル結果予想適令者人員ニホ六六四三人ニ對シニ五四七五三人(約九  
割六分)ノ優秀ナル成績ヲ示シタリ  
斯クテ昭和十九年四月一日ヨリ全鮮一斉ニ徵兵検査施行ニ當リ長キ  
辺リニ於ケラレテハ半島徵兵ノ上ニ深ク大野心ヲ注ガセ給ヒ侍從武官

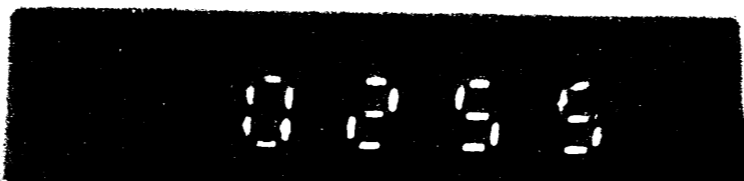
ヲ御差遣ノ上親シク其ノ狀況ヲ御實施視遊ハサレ八月二十日ヲ以テ  
何等ノ不祥事故モナク極メテ圓滿順調ニ終了シタリ

其ノ成績ハ受檢率ニ於テハ受檢予定者ニ三一四二四人ニ對シ九割  
四分五厘(三三三、二九五)ノ好成绩ヲ示シタリ

徵兵検査ノ終了ニ伴ヒ去ル九月一日以降本昭和二十年五月迄ノ間ニ  
此等壯丁八皇軍ノ一員トシテ米英撃滅ノ聖戰ニ勇躍參加シ得ルノ榮  
譽ヲ擔フ事トナルガ昭和十九年十月末日迄ニ於ケル現役入營者數  
ハ三〇、三三七人ニシテ其ノ全員ハ統制嚴肅ナル觀望裡ニ欣喜勇躍入營  
シツツアリ尚ホ本年一月十五日ヨリ徵兵制施行後第一回本年度徵兵  
検査ノ實施ヲ見ツアル現況ナリ

(ロ) 台湾

昭和十八年九月二十三日台湾ニ於ケル徵兵制施行準備ニ関スル閣議  
決定ヲ見ルヤ總督府ニ於テハ各種ノ機關ヲ動員シ徵兵準備ノ萬全



7期シ諸般ノ施策ニ完壁ヲ期シツアル意、所屬ノ推移ハ本島要塞  
 化ノ急激ナル實現ヲ必要トスル状態ニ至テ至レル為、台湾軍ト協議ノ  
 上昭和十九年八月二十一日以後徵兵準備ノ業務一切ヲ中止セルカ  
 兵検査ハ本昭和二十年一月十五日ヨリ全合一齊ニ順調ニ開始セラレツ  
 アル現況ナリ。

七 法 制

朝鮮、台湾ハ内地ト別箇ノ法域ヲ爲シ法令ノ施行關係ハ内地ト異レルモノアリ

朝鮮

法律ハ當然適用セラル、之ノ(會計法、國防保衛法ノ如シ)及特ニ朝鮮ニ施行ノ目的ヲ以テ制定セラルモノハ朝鮮私設鉄道補助法ノ如シ)ヲ除キ原則トシテ施行セラレズ、一般ノ法律ヲ朝鮮ニ施行スル際ハ勅令ニ依ル

朝鮮總督ハ明治四十四年法律第三十號ニ依リ勅令ヲ發スルコトヲ得、勅令ハ勅裁ヲ經テ發セラルル總督ノ命令ニシテ(制定ノ手續トシテ法制局審議、閣議決定ヲ要ス)法律事項ヲ規定スルヲ得、但シ勅令ハ朝鮮ニ施行シラレル法律及特ニ朝鮮ニ施行ノ目的ヲ以テ制定セラレタル法律及勅令ニ違背シ得ザル制限アリ朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ勅令ヲ以テ規定シ内地ノ法律ヲ施行スル場合數ニ、前述明治四十四年法律第三十號モ台湾ニ於ケル律令ノ基礎法タル正十年法律第三號ト異リ法律ノ施行勅令ニ於テ主務大臣ヲ朝鮮總督ニ請旨ラレ

等特別ノ規定ニ得ル建前ヲ執リ居ラス

但シ國家總動員法ハ朝鮮ニ施行セラレルヲ以テ同法ニ基テ該勅令ハ該法規定等ヲ設ケ朝鮮ニ施行セラレ

臺灣

法律ヲ台湾ニ施行スル手續ハ朝鮮ト同シ、但シ台湾ニ於テハ朝鮮ト異リ正法律事項ハ可成内地法律ノ施行ニ依ラシメ後述ノ律令ニ依ラシメガル趣旨ヲ以テ施行勅令中ニ該法規定其ノ(勅令)ヲ特別ノ規定スル事ヲ得シタリ

勅令ハ大正十年法律第三號(台湾ニ施行スル法律ニ關スル法律)ヲ根據トシ勅裁ヲ經テ發セラルル臺灣總督ノ命令ニシテ正法律事項ノ規定ニ得ルモノナルガ前述セル如ク台湾ニ於テハ法律ヲ施行スルヲ原則トスルヲ以テ律令ヲ發スルハ台湾ノ特殊事情ニ依リ特ニ必要トスル場合ニ限ラレ  
律令モ勅令ト同シク台湾ニ施行セラレル法律及勅令ニ違背スルヲ得ズ(制定ノ手續トシテ法制局審議、閣議決定ヲ要スルコト勅令ト同シ)

右述ハ如キ差異アリテ以テ前令ノ制定、改廢件數ハ總令ノ大レニ比シ遙カニ多シ

(参考)

(一) 自昭和十五年(三月三十一日迄)ニ於ケル制令及律令ノ制定又ハ改廢件數

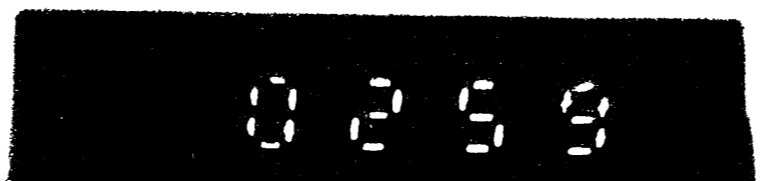
年次	制令		律令	
	制定	改廢	制定	改廢
昭和十五年	一五	三一	二	一一
昭和十六年	八	三四	三	八
昭和十七年	一六	三三	五	一
昭和十八年	一七	八	八	三
昭和十九年	六	二九	四	二〇
計	六二	二〇九	一八	六七

(二) 朝鮮、台湾ニ施行セラルル法律件數調(昭和一九二〇ハ現在)

区分	朝鮮		台湾	
	制定	改廢	制定	改廢
一、全部施行法律	二五	一七	一七	二四
二、一部施行法律	二五	一七	一七	二四
三、當然適用法律	三八	一	四一	七六
四、朝鮮又ハ台湾ニ適用セラルル法律	一七	一	一	一
計	一五五	三六	七六	一四五

(三) 現行制令及律令事項別件数

事	憲法	官制	社寺	地方制度	警察衛生	社会	土地	財務	軍務	法務	學務
項											
制令(昭和三十二年迄)	三	四	一	六	三	三	一	五	二	三	二
律令(昭和三十二年迄)	三	一	八	九	四	二	六	一	二	二	三
計	四八	二	一	一五	七	五	七	六	四	五	五
交通電氣	二七										
産業											
計	二九	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一



八 司法制度

朝鮮及台湾ハ裁判所構成法ノ適用ナク夫々朝鮮總督府裁判所令、台湾總督府法院條令ニ依リ内地ト別口ノ司法制度ヲ有シ裁判機構ニ亦内地ト異ルモノアリ

(一) 朝鮮

朝鮮總督府法務局ハ全鮮ヲ司法行政ヲ統轄スル機關ニシテ内地ノ司法省ニ該當ス裁判機構ハ内地ニ於ケル大審院以下區裁判所ニ至ルニ審判四階級ト異リ高等法院

(一) 覆審法院 (二) 及地方法院 (三) 一審判ノ三階級トス

地方法院ハ其ノ事務ノ全部又ハ一部ヲ取扱ハシムル為支廳(四七)ヲ設ケ又登記

及公証事務ヲ取扱フ為地方法院ノ出張所(一七三)ヲ設置シ各地方法院所在地

ニ供託局(一一)ヲ設ケ供託事務ヲ処理ス尚ホ少手審判所(一) 矯正院(一)

保護觀察所(七七) 保護放逐所(一)ヲ設置ス

監獄事務ノ執行ハ刑務所(一七) 刑務支所(一一) 少年刑務所(三) 同刑務支所(二)ニ當リ 司法保護事業ニ付テハ從來ノ全鮮諸司法保護団体ヲ統一

(二) 台湾

朝鮮司法保護協會ヲ設立スルト共ニ司法保護委員制度ヲ設ク

台湾

台湾總督府法務部ハ台湾總督ノ補助機關トシテ本島ニ於ケル司法行政事務ヲ掌ル

台湾總督府法院ハ高等法院(一) 及地方法院(五)ヨリ成リ 各法院ニ檢察局ヲ

附置シ檢察事務ヲ行フ

高等法院ニ上告部及覆審部ヲ設ケ覆審部ヲシテ地方法院合議部ノ控訴事件ヲ取扱

ハシメ地方法院ニ合議部、單獨部、二部ヲ置キ、合議部ハ一審事件ノ他其ノ監督内單

獨部ノ控訴事件ヲ之審理ス

地方法院ハ其ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル為支部(三)ヲ設ケ、登記事務處理ノ

為出張所(三九)ヲ置キ、供託事務處理ノ為供託局(五)及同出張所(八)ヲ設

ク

尚各知事各支長ハ管轄區域内ニ於ケル民事訴訟調停及其ノ執行ヲ取扱フコトナ

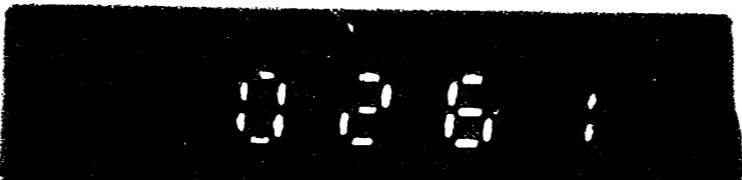
リ居リ本調停制度ハ民事紛争ノ全般ニ関与シ得ルノ特色ヲ有シ其ノ権限広汎ニシ

(三)

テ調停処理件数モ法院ニ於ケル民事第一審処理件数ニ匹敵スルノ状況ニ在リ  
 監獄事務ノ執行ハ刑務所(四)支所(四)少年刑務所(一)之ニ當リ司法  
 保護事業ニ付テハ指導統整機関タル台湾司法保護事業聯盟ノ下ニ全島三百三十五  
 ノ保護団体アリ近ク司法保護委員制度モ設ケラル、豫定ナリ

戦時裁判制度

内地ニ於テハ昭和十七年一月二十四日法律第六十二号裁判所構成法戦時特別  
 ノ制定ヲ見、同法所定ノ民事訴訟ノ第一審判決ニ對シテハ控訴ヲ為スコトヲ許  
 サズ直接上告ヲ為サシムルニ審制度ヲ採用スルコト、為セルガ  
 朝鮮ニ於テハ昭和十九年二月十五日勅令第二号朝鮮總督府裁判所令戦時特別ヲ制  
 定シ裁判所構成法戦時特別ニ於ケルト殆ント同様ニ審制度ヲ採用シ  
 台湾ニ於テハ昭和十八年二月二十四日勅令第八十七号ヲ以テ右裁判所構成法戦時  
 特別ヲ施行シニ審制ヲ採用セリ



九 地方制度

(一) 朝鮮

地方公共団体(國ノ行政区劃ヲ以テ地域トス)トシテ道(一三)府(内地ノ市ニ該ルニ二)邑(町ニ該ルニ三)面(村ニ該ルニ四)アリ  
 道ノ人口ハ京畿道ノ三百二十餘萬人ヲ最大トシ忠清北道ノ九十九萬人ヲ最小トス  
 道會、府會、邑會ハ議決機關ナルモ面會議會ハ諮問機關ナリ  
 道、府ノ主長ハ道知事、府尹タル官吏ヲ以テ之ニ充ツ  
 邑、面長ハ特選官吏(委任又ハ判任)ナリ  
 道會議員ノ三分ノ二ハ間接選挙、三分ノ一ハ知事ノ任命ニ依ル、府會、邑會、面會議會ノ議員ハ制限選挙ニ依リ選出セシム  
 今般内外地ニ一体化ノ精神ニ基キ衆議院議員選挙法カ朝鮮及台湾ニ施行セラル、コト、ナリタル処之ニ伴ヒ間接選挙制度、官選制度其ノ他地方制度ノ諸莫ニ付改正方考慮ノ要ヲ認メラル、モノアリ

(二) 台湾

地方公共団体(國ノ行政区劃ヲ以テ地域トス)トシテ州(五)府(三)花蓮港、台東、澎湖)市(一)街(町ニ該ル六七)庄(村ニ該ル一九七)アリ、ガハ行政区劃タルト共ニ地方団体タル性質ヲ有スルコト州ト異ラザルモ協議會員ハ全員總督ノ任命ニ依リ公選制ヲ執ラズ、州ノ人口ハ台南州ノ百六十一萬餘ヲ最大トシ新竹州ノ八十八萬餘ヲ最小トス  
 其ノ他大抵朝鮮ト大同小異ナルニ台湾ノ方稍官治的色彩濃厚ナリ  
 尚台湾總督ノ指定スル蕃地ニハ街庄制施行セラレズ、現在街庄制ハ施行セラレザル蕃地ノ面積ハ千四百五十五方里余(台湾總面積ノ四割四介余)人口ハ十三萬一千人余(中内地人五千余)ナリ、同地ニ於ケル行政ハ警察ノ駐在所ヲ中心トシテ行ハル。



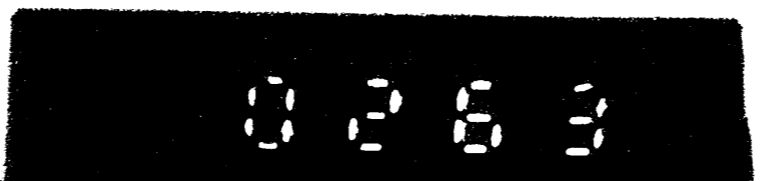
参考

朝鮮ニ於ケル府ノ人口調

(昭和十八年現在)

京城府	一〇七、八一七、八八
仁川府	二四、〇六九、七
開城府	八、五五五
大田府	七、五七一、三
群山府	五、八二八、九
全州府	六、七、七、四〇
木浦府	七、九八、一
光州府	八、三八八、九
大邱府	二、一、三、三、一
釜山府	三、五、三、一、二
馬山府	五、三、二、六、五

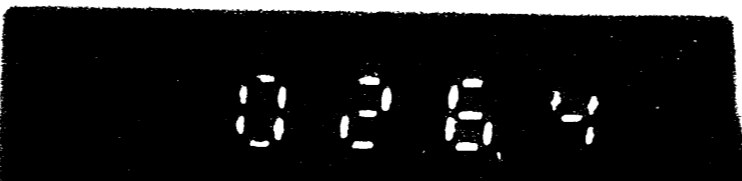
晋州府	五五、〇八五
海州府	八、八七五
平壤府	三六、八八三、八
鎮南浦府	八、三八二、七
新義州府	一、七、五、三、五
元山府	一、三、四、四、四
咸興府	一、二、七、六、〇
興南府	一、六、五、二、一
清津府	二、二、一、一、〇、五
羅津府	三、五、一、九、七
城津府	七、六、七、九



台湾ニ於ケル市ノ人口調

(昭和十八年現在)

台北市	三九七一一人
基隆市	一〇七、八一九
宜蘭市	四〇、〇六七
新竹市	九六、四六四
台中市	一〇三、三八六
彰化市	六五、〇三四
台南市	一六三、九一六
嘉義市	一〇五、二三四
高雄市	三一八、七〇〇
屏東市	六三、四九八
花蓮港市	三九、四八〇



警察機構

(一) 朝鮮

(1) 警察機関

警察機関トシテハ総督府ニ警務局ヲ置キ其下ニ警務課・警備課・経済警察課  
保安課及衛生課アリ

地方ノ各道ニハ警察部ヲ置キ其下ニ警務課・高等警察課・保安課・経済警察課  
衛生課及警備課ヲ設ケ更ニ道ニ依リテハ其ノ他刑事課・外事警察課・建築課ヲ  
設ケタル処アリ

各府・郡・島ニハ警察署ヲ置キ其ノ下ニ派出所・駐在所・出張所等ヲ設ケ所要  
ノ警察官吏ヲ配置シ居レリ

(2) 警察職員

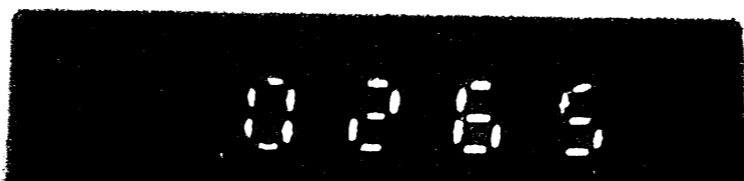
朝鮮ハ併合以來警察・憲兵統合制度ヲ実施シ大正八年ニハ警察官六三三二人  
憲兵八一七九人、計一四、五〇二一人ナリシカ同年八月普通警察制度ノ実施セラレ

、ニ当リ警現十三人、(内地人八人朝鮮人五人)以下二〇、五六一人ヲ増員シ憲  
兵ヲ警察機関ヨリ除キテ、尚其ノ後治安維持上警察署ノ増設・職員増加ノ必  
要ニ応ジ逐次増員ノ結果現在警察部長以下二萬三千人ヲ超ユル状況ニ在リ  
コレガ内地人別内訳左ノ如シ (十八年十一月末現在)

内地人	朝鮮人
警視	八
警部	四八三
警部補	八八一
巡查	一三、三〇七
計	一四、七四七
	七、七五八
	七、九八八

(1) 警察機関

警察ハ中央機関トシテハ總督府ニ警務局ヲ置キ其ノ下ニ庶務課・警務課・経済



警察課 兵事課 防空課 防空施設課 保安課及衛生課アリ  
 各州ニハ警察部ヲ置キ部内ニ警務課 経済警察課 高等警察課 刑事課 保安  
 課 兵事防空課ヲ設ケ、又州ニハ警務課ヲ置ク  
 各市ニ警察署各郡ニ警察課其ノ他ノ地域ニ支廳ヲ置キ其ノ下ニ派出所 駐在所  
 ヲ所属センメ夫々所要ノ職員ヲ配置シ警察事務ノ執行ニ当ラシメツ、アリ

(四) 警察職員

明治二十八年十月台湾ニ初メテ警察官ヲ採用シタルトキハ警部六九人 巡査六  
 九一人ナリシガ 尔来機構ノ整備強化ニ伴ヒ逐次職員ノ増加ヲ見ルニ至リ現在  
 総数警察部長以下八五八八人(内巡査七七三五人)ナリ  
 台湾ニ於テハ朝鮮ト異リ警部補以上ニハ殆ンド本島人ヲ任用セズ  
 巡査全員ノ約六分ノ一ガ本島人ナリ

(ハ) 保甲制度

別ニ警察補助機関トシテ保甲アリ明治三十一年大刑ノ旧慣ヲ參照シ制定セル制

度ニシテ十戸ヲ標準トシテ甲ヲ 十甲ヲ標準トシテ保ヲ組織ス 長トシテ甲ニ  
 甲長 保ニ保正アリ警察機關ノ命ヲ承ケ部内ノ警防其ノ他ノ安寧保持ニ從事シ  
 其ノ台湾統治ニ盡シタル処甚ク大ナルモノアリタルガ最近台湾ニ於ケル警察團  
 体トシテ皇民奉公會ノ鼓吹ヲ見 又治安文化ノ向上ト共ニ一ニ其ノ使命ヲ達成  
 セルニ鑑ミ近々台湾始政五十年ヲ機ニ發展納解消ヲ遂アルヲ定ナリ

二、財政

朝鮮、台湾兩總督府ハ、朝鮮總督府特別會計、及「台湾總督府特別會計」ヲ設ケ管内ニ於ケル一切ノ收支ヲ經理ス。尚之ニ附随スル特別會計、朝鮮ニ在リテハ三、台湾ニ在リテハ二アリ。即チ左ノ如シ。

朝鮮 朝鮮總督府特別會計

朝鮮食糧管理特別會計

朝鮮鐵道用點資金特別會計

朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計

台湾 台湾總督府特別會計

台湾食糧管理特別會計

台湾事業用品資金特別會計

昭和二十年年度豫算額ハ追加豫算ヲ含メ

朝鮮總督府特別會計歳入歳出共 三十一億一千七百餘万円

台湾總督府特別會計歳入歳出共 八億二千八百餘万円

ニシテ昭和二十年年度豫算額ハ

朝鮮總督府特別會計

台湾總督府特別會計

四億二千五百餘万円

一億六千三百餘万円

ナリシニ比較スレバ朝鮮ニ在リテハ七倍強、台湾ニ在リテハ五倍強ニ激増セリ。但シ右豫算中ニハ臨時軍事費特別會計ハ、歳入額、朝鮮七億二千餘万円、台湾二億八百餘万円ヲ包含スルヲ以テ（朝鮮、台湾共ニ支那事変以來ノ増稅、專売品価格、鐵道運費上増等ニ依ル増收額ノ大半ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レス）正味ノ豫算額トシテハ、朝鮮總督府ニ十三億九千七百餘万円、台湾總督府六億二千餘万円ナリ。尚鐵道、通信、專売、各事業、官立諸學校等内地ニ於テハ一般會計ト別個ニ特別會計ヲ以テ經理セラル。官營事業等ノ收支ニ一切總督府特別會計ニ包含セラル。前記正味豫算額ヲ更ニ其ノ内容ニ依リ区分スレバ左ノ如シ。

朝鮮總督府特別會計

台湾総督府特別会計

一般行政費 十四億七千九百九十九円  
 鉄道事業費 六億六千五百九十九円  
 通信事業費 七千八百九十九円  
 専売事業費 一億八千三百九十九円

一般行政費

四億四千六百九十九円

鉄道及通信事業費

八千四百九十九円

専売事業費

九千九十九円

租税收入ハ朝鮮総督府特別会計凡億五千八百九十九円 台湾総督府特別会計ニ億七千七百九十九円ニシテ税率其ノ他概々内地ニ準ズルモ免稅莫ク 向接統々臺灣内地ニ比シ 輕キモノアリ

西總督府特別会計ニ付テハ内地一般会計ノ如ク一般酌歲入補填公債ヲ發行スルコトナキモ特定ノ事業 施策ノ財源ニ充ツル爲ニ公債發行ノ途ヲ開カレアル 即チ昭和

二二二

二十年度ニ於テ朝鮮總督府ニ在リテハ鉄道 港湾 道路 河川等各種事業費ノ財源タル事業公債トシテ四億八百九十九円ノ食糧ノ供出及配給確保助成金 石灰 化学肥料價格調整補給金及企業整備經費等ノ財源トシテ一億六千六百九十九円 台湾ニ在リテハ事業公債トシテ六百九十九円 食糧生産確保補給金及企業整備經費ノ財源トシテ五百九十九円ノ公債發行ヲ豫定ス

